大村幸生教授記念号の発刊にあたって

大村先生は平成９年３月31日付けで定年退職されました。振返ってみるに，先生は昭和37年４月に本学の前身たる九州商科大学非常勤講師として簿記を担当されて以来，実に35年間本学発展のために研究・教育および大学行政の領域で見事な活躍をされました。茲に先生のご功績を讃える記念号を発刊して，先生の本学に対するご貢献に対し感謝の意を表するものであります。

大村先生の研究業績は，関西学院大学大学院および九州大学研究生時代の蓄積時代を経て後，九州産業大学助教授昇任期より堰を切ったたように迸り出る。即ち昭和41年２月から始まる九経調『研究報告』に拠る福岡市に関する諸調査研究から，先生のご専門領域の研究成果が次々と公表されてゆくのであります。“福岡市における繊維卸売業の流通経路分析”，“小売商業の商圏を消費者の購買行動調査を通じて明らかにする研究”や福岡市の都市開発の推進に伴って重要視すべき“観光の開発の必要性と周辺10町村との関連性”を研究された諸報告書は，正に現在の九州の行方を指し示す先見性ある重要なご研究でありました。繊維業における流通経路，取引規模および価格決定等の商業経営の基本テーマについての詳細な研究は『産業経営研究所報』（九産大）に寄稿され，大方の高い評価を受けたこと周知の事実であります。

先生の実証分析に関するご研究は，小休止の後，“都市化と小売競争の構造”，“九州企業の海外進出の実態”，“都市規模論の背景と展開”および“九州地方の伝統的繊維産業とその流通構造の分析”など多数が『産業経営研究所報』上で発表されております。また先生のご業績で特筆すべきは，「市場の系列化」，「小売商業の会計管理」等々に始まる九州一円の広域調査報告書の質量共に相備えた豊富さでありましょう。これら一連の先生の調

査・研究を拝見するに，小売業種関連から消費者行動の変化等の調査の基礎的なヴィジョンとしては日本経済の構造変化の中での流通政策の展開過程を適格に捉えるという学者としての透徹した姿勢が在ると思う。その意味では，先生は本学の『商経論叢』を主とした拠り所として，基本的な歴史・理論の研究成果を発表されつづけてこられた。すなわち，「日本の食品産業と流通政策（1）」，「日本現代流通系統」および「流通政策と小規模事業支援促進策」は，いずれもマクロ的視野に立っての論説であります。

先生は米国におけるマーケティングの生成発展の経過のご研究にも努力されA．W．ショウのマーケティング思想の紹介(『商経論叢』)とか，学会報告を精力的にされてきた。先生のマーケティングに関する独自性は，通常の米国マーケティングの成立基盤を19世紀末葉から20世紀初頭の工業部門に求める通説に対し，1870年代の個別農産物の段階で展開されたものをマーケティングの原型と考える見解を打ち出された点にあります。

さて，大村先生は大学行政の領域でも顕著なご活躍をされました。昭和51年の産業経営研究所長を皮切りに商学部長2期半務められております。本学の混乱期には，学長代理から九州産業大学学長に選出され，昭和58年4月より61年3月まで激職を務められました。現在の本学の発展振りを観る人々は，この時代の苦難の時代は想像出来ません。しかし，われわれは大村先生たちの先達のご苦労を身に体して，将来の飛躍の為に努力しなければならないでしょう。忠南大学との学術交換・交流協定後の両大学の懸橋としての役割を立派に果してこられました。また豊富な人脈ゆえの外国人留学生のお世話も，先生の積極的な外交手腕とキメ細かいご配慮のなせる術と考えます。

先生が，これからもますます健康に留意されて，一層学会のため，また広く社会のために活躍され，私たちのためにご指導下さいますよう心からお願い申し上げる次第であります。

九州産業大学商学部長　石原　定和